

はじめに

戦前の物理学者で随筆家、俳人としても知られる寺田寅彦は、「天災は忘れたころにやってくる」という有名な言葉を残している。しかし、寺田氏の著作の中にこの言葉があるわけではない。防災の重要性を随筆等で訴え続けた彼の考えを弟子等が要約したものではないかと言われている。

この言葉は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で注目されたが、それから16年後の2011年3月11日、日本国民はこの言葉の持つ意味の重みを再び実感させられた。

宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震は日本における観測史上最大規模であり、津波は岩手、宮城、福島を中心とした太平洋沿岸の市町村を一瞬でのみ込み、壊滅的な被害をもたらした。地震発生から数時間後、かつてそこにあった人の営みを微塵も感じさせない情景が残されていた。

情報伝達技術の発達、リアルな映像で、押しつぶされ、流されていく家屋や車などあらゆる惨状を日本国民の目に焼き付け、福島原子力発電所の爆発事故は放射線汚染の恐怖を突きつけた。

阪神・淡路大震災の死者、行方不明者数は6434人。東日本大震災はそれをはるかに超え、2012年2月7日現在、死者は1万5846人、行方不明者3317人、全壊や半壊の住宅等は37万2044件。避難者約35万人は仮設住宅などで今なお不便な生活を強いられている。

人は永い歴史の中で、天災に遭遇しながらも知恵と勇気で今日の営みを築き上げてきた。東日本大震災では日本全国はもとより、世界中の人々が誰かの役に立ちたいと支援の手を差し伸べた。直接現地に出向き汗を流す人もいれば、義援金や物資の支援等で被災地の復興・復旧のために想いを届けた人たちもいる。それは人と人をつなぐ絆を生み、大きなパワーを発揮した。

歯科界では、口腔ケアにより震災関連死を防ぐため、あるいはご遺体をご家族の元に帰すため、必要な器材等を車に積み込み、震災直後に現地へ向かった歯科医療関係者も少なくなかった。

日本歯科新聞は3月15日の第一報に始まり、歯科医療を中心とした被災地の現状や被災地支援に取り組む歯科医師らの現場での生の声を集め、逐次紙面に掲載した。現地に赴いた本紙記者からは、原形をとどめぬ歯科診療所の写真などが次々と送られてきた。

本書は、2011年3～12月に本紙に掲載した記事などを再編集した記録である。東日本大震災という未曾有の災害を風化させないためにも、常にあなたの傍らに置いてもらいたい一冊だ。

経営の神様、松下幸之助は、「われわれが今日こうして生きていられるのは自分一人の力ではない。世の多くの人々のおかげがあればこそである」との言葉を残している。人が人として生きるとはどういうことなのか。東日本大震災はわれわれに新たな問いかけを残したような気がする。この本が、長く人々の記憶の壁に震災がとどまる一助になれば幸いである。

取材、本書発刊に当たり、多くの方々にご協力をいただきましたこと、ここにあらためて感謝申し上げますとともに、犠牲になられたの方々のご冥福をお祈りし、被害を受けた人々が一日も早く笑顔を取り戻されることを心より願います。

日本歯科新聞編集長 安岡 裕喜

本書は、週刊「日本歯科新聞」、月刊「アポロニア21」の掲載記事に加筆、修正し、再編集したものです。人物の肩書きや施設名称等は原則、取材・掲載当時のものです。

第1章 歯科医院等の被害・再起

20 16 2

カラーグラビア

はじめに

日本歯科新聞縮刷(2011年3月15日号・23日号6～7面)

34 28

ニュースダイジェスト

取材

試練の中で奮闘する歯科関係者たち——34

仮設住宅の中に診療所

4人で力を合わせ再建

内科医と協力し再開

大規模半壊からの復活

イスラエル寄贈施設で活動

全国からの支援と共に

「診療再開しました」

原発避難の不安と新生活

原発事故と大学運営

社屋が倒壊し、移転

原発から30⁺地点の鬱積

山本歯科医院(岩手県宮古市)——44

大槌町歯科診療所(岩手県大槌町)——46

吉田歯科医院(岩手県陸前高田市)——50

ファミリー歯科医院(宮城県気仙沼市)——54

公立南三陸診療所(宮城県南三陸町)——58

木村歯科医院(宮城県女川町)——62

森歯科医院(宮城県東松島市)——64

石井歯科医院(福島県双葉郡)——68

奥羽大学(福島県郡山市)——74

協立医療(福島県郡山市)——78

新妻歯科医院(福島県双葉郡)——80

根本厚歯科医院(福島県いわき市)

いわき歯科医師会(福島県いわき市)

84

寄稿

県歯の対応と活動指揮

一歩ずつ前へ踏み出す

箱崎守男——84

斎藤政二——86

第2章 遺体の身元確認

104	ニュースダイジェスト
108	寄稿 悲しみと寒さの中で 地震の翌日から活動
116	講演 歯科所見による確認の意義 警察歯科医会が全国大会
	重原聡——108
	熊谷章子——114
	山本伊佐夫——116
	工藤祐光・江澤庸博・菊月圭吾——118

第3章 被災地での医療支援

130	ニュースダイジェスト
134	寄稿 震災関連死を避け 各地の避難所で活動 県歯と連携し避難所へ 被災患者、行き場失う 原発避難者に歯科提供 自衛隊衛生機能と支援 青空の下で義歯を研磨
156	取材 救援プロジェクトが発足
158	講演 緊急シンポで支援を模索
	足立了平——134
	杉山正隆——136
	露木隆之——142
	中久木康一——146
	藤野健正——150
	魚住洋一——152
	佐野隆一——154
	神奈川歯科大学——156
	中久木康一・足立了平・佐藤保・田中彰——158

第4章 その他の支援・危機管理

166	ニュースダイジェスト
170	寄稿 支援者のストレスケア 海水への対処が難航 東北の人々に寄り添う 被災者から励まされて 支援と医院経営の両立
182	座談 BCP活用の可能性探る
	畑吉節末——170
	城戸祐二——172
	高須進——174
	松尾孝章——176
	小笠原康二——178
	安田登・布施泰男——182

第5章 行政・団体の動き

190	ニュースダイジェスト
210	記者日記 現地を歩いた記者の取材録
222	データで見る東日本大震災と歯科
228	東日本大震災関連年表 歯科・行政・社会等の動き